

1	審議会名	平成26年度第2回西部公民館運営審議会
2	日時	平成27年3月17日(火)午後6時30分から午後8時30分まで
3	会場	上田市西部公民館1階大ホール
4	出席者	田村保会長、小岩井礼子副会長、荻久保美智子委員、小市武志委員、 瀧沢宏一委員
5	市側出席者	水野館長、中山次長、小山主査、清水社会教育指導員、柳澤社会教育指導員
6	公開・非公開等の別	公開
7	傍聴者	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	平成27年3月20日

協議事項等

1	開 会 (事務局)
2	あいさつ (田村会長) 今年は、全国人権・同和教育研究大会が長野県開催となっており、分科会の一部を上田市で受け持つようになるかも知れない。全国規模の大会なので、人権・同和教育について学習する良い機会になると思う。青少年関係についても、長野県青少年健全育成県民大会などが上田市で開催されることになっている。上田市として何を出していくのか。上田市オリジナルの事業はあまり多くないので、西部オリジナルのものを出していければと考えている。本日の審議会は、次年度の公民館事業の柱をどうしていくのか、話し合っていきたい。
3	審議事項
(1)	平成26年度事業実績(見込み)について (事務局)一括説明 (委員)太郎山虚空蔵山縦走路トレッキングの参加者は減少傾向かと思っていたが、人気が高いことが分かった。西部独自の事業として今後も是非継続していただきたい。参加者の中で、子どもの参加はあるのか。 (事務局)太郎山のみであれば子どもの参加も可能であるが、縦走する虚空蔵山は急こう配で危険な箇所もあるので、子どもの参加者はいない。 (委員)人口は減少する一方だが、公民館の利用者は今後どうなるのか。 (事務局)西部公民館の建設にあたり、今後の公民館利用者の動向を調べた。総人口は著しく減るが、60歳以上の利用者は向こう30年位減らない見込みである。上田市では調査していないが、栃木県日光市は公民館の利用者のうち45%が60歳以上の利用であるという報告を出している。上野が丘公民館では、改築後の利用者が大幅に増加しており、西部公民館においても新築後は2倍以上となるのではないかと考えており、30年後も年間6万人前後の利用になると予測している。 (会長)新しい公民館の予算がつく見込みとなった。ここ2~3年の動きで西部のオリジナリティが出てきた。企画には試行錯誤しているようだが、毎年新しい事業を考えてもらっている。
(2)	青少年育成関係の主な事業実績と課題 (事務局)一括説明 (委員)公民館での色々な青少年事業は、大変ありがたい話である。米づくりに関しては、今の子どもたちは経験もなくほとんど知らないのが、貴重な体験だと思う。米づくりを通して食べ物の尊さやありがたさを知ることができればと思っている。勉強以上の学習だと思う。 (会長)米づくりに関しては、いくつかの学校で行き詰まり、試行錯誤している。西部で

の米づくりでのすごいところは、保護者が実行委員会に入り、子どもたちに米づくりを経験させたいという思いがベースになっていることであり、大きな動きといえる。

(委員)米づくりに使う農業用機械はどうしたのか。実行委員の中には農業経験者は含まれているのか。

(事務局)実行委員の中には、稲作農家や農業経験者の方に「アドバイザー」という形で協力をいただいております。技術的な助言や指導、機械の提供をお願いしている。

(会長)子ども達には、泥の中で貴重な体験をさせたいと思っている。米づくりは大事な事業である。

今の保護者に言いたいことは、筋の通った子育てをしてほしいことだ。川崎市や立川市の事件は学校の中で何も話をしていない。これからは、公民館も関わっていかねばならない。子どもたちには何を身につけてもらわなければいけないのか。人を殺してみたいなどという異常な感覚は、昔はなかったと思うが。

(委員)今のいじめは陰湿。昔は相手が泣いたり、ある程度まで行ったらやめたものだ。今の時代は残酷な悪で、恐ろしい。昔と明らかに違う。

(会長)昔は、やめる限度を知っていた。昔は、相手の気持ちを思いやる心があった。

(会長)学社連絡会では、今年度初めて「青少年育成推進指導員にも参加を呼びかけた」とあるが、結果はどうだったのか。

(事務局)「不登校傾向の子どもたちのために私たちのできることをテーマにし、グループで情報交換を行ったが、実際に不登校の子どもを持つ親からの話を聴くことで大変良かった。

(会長)西小学校においては、教育懇談会を行っている。登下校時の問題等、生活に身近な情報を吸い上げるような手立てを考えたらどうかと思う。第三中学校は大規模改築により、これから仮設校舎になる。仮設校舎は、夏は暑いし、殺風景でもあるので、今取り組んでいる花づくりはとても大事である。仮設校舎の廊下等にプランターで花を飾り、子どもたちの周りに花があれば、子どもたちの心も落ち着くのではないか。

(会長)学社連携の運営の在り方はいかがか。塩田中がつまずいた原因は何か。ボランティアの学校での活動が当たり前になり、ボランティアが作業している横をあいさつもせず、平然と通り過ぎるなど、生徒も先生もボランティアへの感謝の気持ちが見えなくなった。せめて見返りとして、気持ちや心が伝わらないといけない。学校の大変な仕事をボランティアが肩代わりするような仕組みは良くない。

(事務局)ボランティアのモチベーションを維持することは難しい。気持ちに張り合いを持たせることが重要である。

(会長)学社連携の基礎は出来かかっている。これからの西小での活動は組織づくりだ。組織をきちんと固めないと長続きしない。上野が丘公民館のわいわい塾は公民館がベースで組織化されていないことが問題点である。塩田は組織から入ったが、公民館にいるコーディネーターは2~3年で異動してしまう。浦里はコミュニティスクールであるが、地域側と学校側で校長が二人存在するような形で運営が難しい場面もある。

(3)平成27年度主な計画(案)と課題

(会長)女性学級の停滞・縮小が課題とあるが、女性学級は必要なのか。

(委員)地域の女性学級で主催する講座は楽しく、子どもから高齢者まで大勢の参加者がいるが、女性しか出てこない。

(会長)生活を形作るのは女性だけなのか。ある意味で女性学級は行き詰っているのではないか。これからは、女性学級というより、「家庭づくり学級」なのではないか。家庭の在り方について持っていく方向で、家庭づくりの時代ではないかと思う。新しい女性学級の方向を考えていく必要があるのではないか。

(委員)分館活動は自治会から予算をもらって、かなりの事業を計画し、実施している。しかしながら、参加者の固定化が問題になっている。普段出てこない人をどうやって引っ張り出すのかは永遠の課題である。

(会長)事業の内容も前例踏襲型で方向性を見失っていることも原因にあるのではないか。

(委員) 役員も1年交代では自分の考えを出せずに慣れるだけで終わってしまう。最低でも同じ役を2年やらないと結果が出てこないが、役員の成り手がいないので、難しい問題だ。

4 その他

(事務局) 次回の審議会は西部公民館の施設整備にあたり、城南公民館の視察を行い、意見交換を行いたい。

(会長) 新しい西部公民館はおもしろいものを作りたい。ただ、今の場所より西小から離れてしまうので、学校や地域との連携をどのように考え、結び付けていくのか、地域における公民館の在り方について考えていきたい。

5 閉 会 (事務局)